

	総合研究大学院大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文化科学研究科 (D : 15名)
沿 革	昭和 63 (1988) 年 総合研究大学院大学 設置 平成元 (1989) 年 文化科学研究科 設置
設 置 目 的 等	平成元 (1989) 年に、人間の文化活動並びに人間と社会、技術及び自然との関係に係る総合的教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた高度な研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的として、文化科学研究科が設置された。
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>総合研究大学院大学における人文科学分野においては、人間文化研究機構等に設置されているそれぞれの分野で我が国を代表する研究所を基盤機関とする博士課程のみの研究大学院大学として、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p>【教育】 (大学院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間の文化活動並びに人間と社会、技術と自然との関係に係る総合的教育研究を行い、自然観・文化観・人間観に関わる広い視野を備えた高度な研究者及び専門性の高い研究能力と見識をもって社会に貢献する人材を養成する。特に民族学・文化人類学、国際的な視野での日本の文化と文明、広義の日本歴史分野、日本文学とその周辺分野における博士研究者を育成する。 ○ このため、学生が自ら高い研究能力と国際的通用性に裏付けられた見識と視座を磨く方策を開拓するため、「総合日本文化研究実践教育プログラム」において、海外学生派遣事業や研究誌 (レフェリージャーナル) の刊行等多様な活動を実践している。 ○ 今後は、専攻間連携コースワークを通じて、学術資料の科学的分析、学術資料情報のデータベース構築、学術資料の科学的保存管理、学術資料を通じた研究プレゼンテーションなどの先端的学術資料マネジメントを学ばせ、広い視座と研究力を兼ね備えた人材を養成する教育プログラ

ムを実施する。また、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 人文科学分野における高い研究実績をいかし、4つの大学共同利用機関を基盤として、全国の研究者と共同研究を行うなど、大学の特色となる設置形態を最大の強みとしており、葉山本部機能の学融合推進センターを主とした専攻横断型共同研究（新たな協業の形態）や、生物としてのヒトと文化を持つ人間という両面の総合的な研究（新たな研究領域）に組織的に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、膨大な数の論考や著書が出版され、トムソン・ロイターの引用データに掲載されるなど、国際的に広く活用されており、また、修了生が「第20回パルヌ国際ドキュメンタリー&人類学映画祭 科学ドキュメンタリー最優秀賞」を受賞するなどの成果が表れている。
- 今後は、基盤機関の専門分野における高い研究実績をより一層いかし、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国の社会の課題解決・文化の発展をけん引する。

【その他】

- 大学本部の葉山キャンパスでは、横須賀高校アカデミア、サイエンスカフェ等の開催、その他市民向けシンポジウム等に講演派遣等の社会還元を積極的に実施し、社会還元を図っている。
- 全学的な機能強化を図る観点から、社会ニーズを踏まえつつ、大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。

(参考)

先導科学研究科を除く研究科は、大学共同利用機関法人等の設置する研究所を基盤機関として構成される。

